

聖書之真理

第四十四號

六月號

主筆 江原萬里

信仰生活難と生活易

主筆

眞のクリスチャン

藤本武平二

書翰に現はれたる内村鑑三君

宮部金吾

米國留學まで

イスラエルの民とその神

江原萬里

その宗教の特質

神の大經綸と福音

藤本武平二

クロムウエルの生立ち

江原萬里

聖書の現代經濟觀序

江原萬里

柏木通信

齋藤宗次郎

ワルツブルグ城内のルーテル

女子基督者の結婚難

ワルツブルグ城内のルーテル

ルーテルがウォルムスの會議で當時全歐洲を支配する法王と帝王と王侯とから彼の唱へた『信仰のみに由る義』の教義を棄てよとの命を符せず、『我爰に立てり、若し我が言ふところにして虚偽ならば聖書を以てそれを證しせよ』と獅子吼の後、暫くワルツブルグ城内に隠棲した。

彼は城内に隠れて靜かに聖書を獨逸語に翻譯し宗教改革を確實な基礎の上に据えつゝあつた時、彼によつて唱導せられた『信仰の義』は獨逸と云はず全歐洲にさながら冬の野の枯草に火がついたやうに廣まり、ロマ教會組織は根柢から搖るぎ、僧院は潰れ、寺領は奪はれ、多數の僧尼は路頭に迷ふに至つた。人心恟々として安きを得なくなつた。ルーテルは之を眺めて心を痛めた。彼は決して彼の唱へた真理が、まで徹底的に進行してロマ教會を破壊したことを見て快哉を叫ばなかつた。否、彼は度々自分自身を疑つた。悪魔が彼を誘惑してかやうな事を仕出かしたのではあるまいかと思つたのである。彼は度々悪魔の囁きを聞いた。

『お前の仕出かした事を見る、此の古よりの教會、聖者の母が暴行を受けて穢され毀られたのを視る、それは皆お前のせいだ。無知なる一寒僧のお前が人々に此の潰らばしい仕事をさしたのだ。お前がいけないと云ふものを善いとする聖者たちよりもお前は賢いこいだらうか。法王監督、僧侶、國王、皇帝、これらの一人も、これらの全體も修道僧マルチン・ルーテルよりは賢くないであらうか』。

此の悪魔に彼は度々強く苦しめられ、そのために疑惑と屈辱と失望とに陥つた。彼は眞實悪魔の存在を信じて居たのである。彼がその襲撃を受けて之にインク壺を投げつけたのは有名な話である。或る夜寢靜まつてから不圖彼は城内の彼の寢室の一隅で異様の物音を聞いた。不信なる現代人はすぐそれを鼠だと感付くが、ルーテルはてつきり悪魔の襲來と思つた。彼は燭を秉つて起き上り、室内を隅なく見廻したが何者の影も見なかつた。彼の良心はかやうに鋭敏であつた。然かも此の悪魔に襲はれ乍ら彼が毎夜安眠することを得たのは彼の信仰であつた。自分はキリストを信じて神に義とせられて居る、だから如何なる悪魔も怖るゝに足らない、彼はこの信仰で生きた。

彼は此の驟棲中度々法王の手が延びて來て遂に生命を失ふであらうと覺悟して居た。自分を捕えて殺し得ないのは法王の恥だと思つた。彼は常に死の影と共に暮した。然かも彼は彼と同信の人々が生死を賭して信仰の戦を勇敢に戦つて居るのを坐視することを得ず、之を授けるために城を出やうとした。彼の友は『若し君がライプチヒに行けばゲオルク侯が屹度君を殺すぞ』と云つて之を諫止したが彼は服はなかつた。

何、ゲオルク侯！ 假令ゲオルク侯が七日間雨のやうに天から降つて來ても俺はライプチヒに出かけるよ。

彼の此の勇氣はキリストを信する信仰から來た。彼に在つては『信仰に由る義』は神學論ではなかつた。『義人は信仰に由り生くべし』と彼は生かしかし彼が生きた生命其の物であつた。

聖書之眞理

第四十四號

昭和六年六月一日發行

信仰生活難と生活易

最近一友が寄せた書信の一節に云ふ。

『私は此の頃つくづく神のみに生くること云ふ事の六ヶしい事に氣付きました。病氣も神に委せた筈で、ほんとはまだまだ委せ切つて居らない事がわかりました。の筈と實際との差が思つたより大きいのにあきれます。しかし神は此の自分をも愛して下さると思へば安心です。』

と。信仰生活の難易を良く言ひ顯はして居る。その困難は『まだまだ委せ切つて居らない事』に在る。何人とも雖も一切を擧げて身も魂も悉く神に委せやうと努力し、精進する時信仰生活程困難な生活はない。到底それは不可能である。何となれば人は自分で自分を神に委せる事は出来ないからであ

る。此の『自分で自分を』がある間は決して全部神のみに生くる事は出来ない。之自己を神の前に義としやうとする事であつて、不可能である。

然るに信仰生活の容易は此の書翰の後段に在る。『しかし、神は此の自分をも愛して下さると思へば安心です』。一度自分を見ず、こんな自分をすら愛し給ふ神を見上げる時眞に安心がある。感謝がある。それが眞の信仰である。前のは信仰に似て信仰ではない。律法的行爲の一種である。

一度、我等を愛しその御子を十字架に釘ける程の極悪なる罪人をすら其の罪を赦し、之を救はんがために、己れ自ら十字架の苦難を受けたまふた我等の主イエス・キリストの内に在し給ふ神を見上げる時こんな平安はない。それが信仰である。されば信仰程生くるに易き生活方法はない。

眞のクリスチャン

藤本武平二

キリスト・イエスの教訓を實行するもの必ずしも眞のクリスチャンといふことはできない。又キリストを模範としてキリストの如き品性を供ふるもの必ずしも眞のクリスチャンといふ事はできない。又熱心に祈り、熱心に傳道し、熱心に慈善事業を營み、熱心に聖書を研究する者必らずしも眞のクリスチャンといふ事はできない。

眞のクリスチャンとはキリストを模倣するとか憧憬するとか崇拜するとかいふ者ではない、神の御恵によつて神に捕へられ、自我が全く打碎かれ、キリストの靈が自我に代りてその中に主となり給うた者をいふのである。故に舊き我れは最早なくなつて、新らたにキリストの靈によつて生まれた者をいふのである。

舊き自分が頑張つてゐては、如何に奮勉努力し

てもキリストの模倣者崇拜者とはなり得るもクリスチャンとはなり得ないのである。よし外觀的にはキリストと同じになり得たとするも、若しキリストの靈によつて新たに生まれたのでなければ生命がない、キリストと共に復活し、永遠の生命に入ることはできない。

故に眞のクリスチャンとはキリストの生ける靈が魂の中に迎へ入れられて、根柢から作り替へられて、全く別な人になつた者の謂である。故に大變動が起つたのである。クリスチャンとなつたその時その人は既に永遠に生くべき不死の性質を與へられたのである。

この生れ更りは罪を悔ひ碎けた魂を以て御前に跪く人には、よしその人に如何なる罪業ありとも又學問はなくとも、神は價なきをどがめ給はずして、キリストの十字架の功により何人にも賜はる神の恩恵なのである。

書翰に現はれたる

内村鑑三君（上）

三月二十八日夜（一週年記念會にて）

宮 部 金 吾

此度内村全集の出版が計畫されまして着々その準備が進捗して居りますが、其内に内村君の書翰を集めて出版し度いから所有して居るものを全部一時借りたい。そしてそれを謄寫した上お返しするからと令息祐之博士より申越されましたから、古い手紙を入れてあるトランクや行李を探して見ました所、明治十四年以降昭和四年の末までに亘り約二百三十通の書翰を見出しました。

此等書翰の大部分は英語で認めてありまして、然かも其英語たるや流暢にして殆ど完全無缺と云つても差支へないもので、札幌農學校卒業當時に

書かれたものも近年書かれたものも其間に殆ど聊かの差異を認める事が出来ない位であります。

此書翰全部に亘つてお話することは時が許しませんから、今晚は明治十四年より同廿五年に至る十一年間に書かれた手紙の内に現はれた内村君の信仰變遷、進歩、發達の跡を探つて見たいと思ひます。

手紙ほど能く其人の性質や思想を現はし示すものはないと思ひます。其時々之感想や考を有の儘に書かれてあるからであります。

明治十四年に札幌農學校を卒業しましてから直ぐ私共は久々で歸省しました。私は幸ひ學校から東京大學に於て植物學を専攻する様に命ぜられまして滿二年間東京に在住することになりました。

内村君は十月上旬に歸札の途に就いたのでありますが翌十五年の十二月まで、開拓使が廢されましてから札幌縣の御用掛として水産業の調査に従

事して居られたので、此約一年間手紙の往復がありました。

千八百八十一年（明治十四年）十一月十日の手紙に札幌基督教青年會が新設せられ同十二日に其第一回の講演會が開かれる事を報じて來ました。

此の會の事は内村君の *How I became a Christian* に依ると南二條西六丁目白官邸の假會堂に約六十名集り、當日内村君は『帆立貝と基督教との關係』といふ題で話された。此講演の主意は地質學と創世記との調和にありまして、同君は當時此問題即ち學術と聖書との調和に關して最も力を込めて居られた時でありました。同じ手紙に在京の嚴父より二回も通信があつて日曜日毎に平岩牧師の教會へ出席して居ると報じて來られました。嚴父は始め容易に基督教を受容れられなかつたのでありますが、内村君が熱心に祈り傳道せられ漢譯の馬可傳の註解書を嚴父に贈られたりした結果であります。

す。此の深き神の恩寵に對して

感謝に充たされ日々神に近づきつゝ、あることを感じて居る。斯かる事を成し遂げて下すつた神は生ける神でなくてはならぬ。そして吾が一生を通じて吾を導いて下さる神であることを信ず。吾は狂喜す。どんな事があらうとも恐るゝに足らない。吾が祈を斯くも聞いて下さる神が常に吾が味方である故に

千八百八十一年（明治十四年）十二月十五日附の手紙に

札幌基督教青年會は頗る有望な状態である。第二回目の集會も盛會であつた。講演者は足立君廢娼論、大島君はクリスチャンの愛、僕はアルコール性飲料の使用と其生理的作用、永井祿氏は時事小言で、入會志望者が四名あつた。

然し最も有望なるは教會の仕事で、日曜の禮拜の集りは約五十名で毎會新しい面を見る。或る青年は聖書賣に廻わり、或者は近村傳道に従事し、大島君は教會の事に頗る熱心である。僕は専ら教會の事務に忙しい。日曜學校の事業も計畫されつゝある。婦人會も有望である。

又千八百八十二年（明治十五年）一月三十日附

の手紙に

教會の仕事が甚だ複雑になつて來た。僕はさうしても其衝に當らなくてはならなくなつた。總て教會の用務の内最も困難なものは皆僕の處に來る。札幌基督教青年會の事業も同様である。開拓使の仕事が面白くないから辭さうかと思ふ。一方を見れば總てが暗黒で朦朧としてゐる。僕の將來に就て臆げに知ることを得る。北海道の漁夫になるか、ガリラヤの漁夫になるかは僕は告げること出來ぬ。神の御召に従ふのみだ。

是に由りますと此頃既に傳道の志が深くあつた事を思はされるのであります。又同じく札幌から其年六月十五日附で

昨秋僕が札幌へ來てから主な勉強は生物學と基督教との關係であつた。僕の氣に入りの著者はレオネル・ピール、カーペンター、ウインチエル、ダナ、ミバート及びジョセフ・クック氏等である。

眞理は松明の如く振れば振るほぎ輝く。靈魂不存説、人間の生命は單に複雑なる器官の作用であるとの説、如何に望なき賤しき思想よ!

と記してゐます。十五年十二月に北海道を辭して

上京せられ、津田仙氏の經營して居られた學農社に教鞭を取らるゝ様になり、私も丁度在京中でありましたから互に親密な交際を續けてゐました。

其頃神系衰弱症に罹られ熱海へ轉地することとなり、出發の前即ち十六年五月二十四日附の手紙に
過ぐる日曜日から僕は新しく生れ變つた人の様に感ずる。僕は今神の愛を眞に感知す。キリストの十字架さ血は合理的で尊くある。僕に取つては僕が此世に生れた以來あの夜位歡喜の頂上に達した事はない。君の慰藉と勧めに對し心より感謝す。

と記し、又同年八月二十一日伊香保から手紙を呉れました。これは私が不日札幌へ歸らねばならぬいからその別れの手紙を寄せられたのであります。内村君は此頃は非常に感傷的で浪漫的で且つ詩的でありました。安中で後に最初の夫人となつた淺田竹子嬢と親しくなられたのも此頃であります。内村君は其頃將來の方針に就き頻に心を悩まして居たので次の様に書いて來ました。

第一、生物學を専門にすべきか？ 此學問は僕が最も好む處で、其を研究して行ければ實に幸福である。然し職業を選定するに當り、次の如き問を先づ自分自身にかける義務があると信ずる。それは如何したら僕は神と人類の爲に最も役に立つか？ と言ふことだ。此の問題を解決するには先づ己を能く知らねばならぬ。吾々の性質、技倆、身體及精神の健康状態等に付き細心に熟考せねばならぬ。考慮の結果生物學は神が僕に命じ給ふ學問でないと思ふ。

第二、水産？ これは最も趣味多く感じ且つ目下唯一の財源である。之を益々研究し且つ出來得れば實地に行ひたい。若し叶ふなれば再び官途につき水産に關する知識を磨きたい。然し水産は僕の使命であるか？ 社會に奉仕する爲の僕の一生の目的であらうか？ 僕の弱き健康が否と云はしむ。然らば何を爲すべきか。

第三、傳道？ 僕は否と思考す。僕の餘り烈しき神經質、粗暴なる性質、不完全なる辯舌、尙又弱き感受性等が僕をして傳道生涯を取ることを許さぬ。其上僕のか弱き健康にて大勢の家族を支へて行かねばならぬことが最も大なる故障である。本當に僕は靈魂問題には深き興味を持つ。そして出來得る限り靈魂を光に導く様努力する

であらう。

然らば僕は何を爲すべきか？ 無論一大事業を遂げるには多くの困難の山を越えねばならぬ。其故僕はロングフェローの勸言に従ふ「働いて待つことを學べ」。現今では僕は何事でも命ぜられた事をする。此秋は水産に關する研究を始めるであらう。又出來得べくば生理學をも。

淺田嬢との婚約問題に種々な故障があつて容易に纏らなかつたが、十六年十一月二十七日附の東京よりの書信に

僕の生涯に於て近頃一つの事を觀察した。それは僕の生涯は今日まで内外共に絶間なき混亂の生涯であつた事を。僕の意志が實行されたためしが一度もない。四方八方障害のみ。然し神は僕を屢々鞭ち給ふことを感謝す。神は僕をして神の御仕事の爲めに訓練し給ふことを深く確信す。夫故僕は彼の折檻を喜と平和とを以て堪え忍ぶ。と認めて來ました。然しやがて總ての故障がこれ目度く結婚することとなり、擧式の當日即十七年三月二十八日東京よりの手紙に

私共兩人を互に結び付けた動機は決して世俗的名譽

や位置や富ではありません。然し神と人との爲に善を爲さんとする大志でありました。

とあります。然るに結婚後家庭に風波が絶えなかつたので其苦衷同情に堪えぬものがあります。其年九月十五日附の書信に

僕は始めてダビデの詩篇を興味を以て精讀した。それは異つた局面より見た人間の性格の眞實なる描寫であることを知つた。

僕は屢々失望落膽する。神は僕に對し餘りに酷で且つ無慈悲である様に考へた。然し荒れ狂ふ嵐の内にも天が時に僕の爲に開け、聖靈が鳩の如く僕の上に止まるを見た。總ての事が明瞭である。神の大いなる御手の下に、僕をして謙遜に忍耐深くおらしめる。唯キリストにある神は困難の時我等の避難所である。キリストを僕に賜はつた神の大なる恩寵に對し感謝す。キリスト在さば此の世は堪えられる。キリスト無しには堪えられぬ。

而して遂に悲しき日が來ました。結婚生活八ヶ月にして十月二十七日附で次の書面が參りました。

僕の一身に取り非常な出來事が起つたことを告白します。前便に於て近頃 *humanity* に就て多くを學んだと書

いたが實は過去八ヶ月間神様より外に知られぬ特殊な困難を感じつゝあつた。其原因につき永い間探し求めて居たが何物をも見出し得ぬ爲め之れ全く自分の過ちであると考へてゐた。然るに近頃事が暴露した。其原因は全く家内であつたことが分つた。私の助け手慰むる者又共働者であると信じて居た彼女が悪る者であり、羊の皮を被りたる狼であることが解つた。

斯かる恐ろしい打撃を受けた私の心中を察して呉れ。良妻を與へらるゝ様祈つた祈禱は聞かれなかつた。何んな罪惡を犯した爲に斯かる嚴罰をお與へになりますか？ 熟慮の上、我良心に問ひ又聖書に由り終に彼女を離婚することに決心した。

此の打撃又迫害を避ける爲め一時身を米國に避けることにした。總ての物を賣り拂ひ僅かの旅費を作り愈々十一月六日の便船で渡米の途につくことに決した。

友よ流すべき涙を有つなれば、今我が爲に流して呉れ。貧困の内に育ち、小兒の時より家庭の困難によりて挫かれ、弱りつゝある健康と暗黒なる前途とを持ち、年老いたる兩親を残して外遊せんとする其心事を同情して呉れ。

而して故國を離れんとする二日前即ち千八百八

十四年（明治十七年）十一月四日左の別れの手紙を寄せられました。

艱難なる時は既に去つた。

天父の恩恵により今は平靜になり、救主に近づきつゝ、あることを感謝す。

家族の貧窮と恐ろしき混雑の内に我等は神に讚美を歌ひつゝ、あります。主の苦き杯に與り其を共にすることを得たるを感謝す。

渡米後受けた書翰は九通あります。千八百八十五年（明治十八年）一月十七日ペンシルヴァニア州エルウインに在る州立白痴院からのものには次の如きものであります。

吃くことを止めよ、我靈魂よ！ 爾はルーテルの如く爾の行爲を以て義とせられんと試みつゝあつた。義人は信仰に由りて生くべし。十字架のイエスを觀よ。彼を信賴せよ。彼、彼のみに於て爾自らを清めよ。

僕は涙に咽んだ。僕は最善を盡し、正しい意志を以て萬事を行つて来たから少しも缺點なきものと感じて来た。然し否。僕は全く不義其物である。キリスト・イエスに於ける神の恩恵を感謝す。

札幌にある我等の愛する教會の爲めに何卒盡して下さい。我が希望が滿されんことを望む。それは他日誰にても獨立教會の歴史を書く者があつた時、其の誠實なる保護者の一人として J. K. Uehimura の姓名の記載されることである。之を僕の遺言として然らば僕は仕事にいとしまん。

此の福音に接した喜はアマスト大學に入り、シリー總長の勧めにより初めて受けた様に言ひ傳へられて居りますが、此の手紙に依りますごアマストに行く以前に斯かる天啓を受け、感涙に咽むで居るのであります。此の純福音の信仰こそ君が信仰生涯の基本を成せるものであります。

（以下次號につづく）

イスラエルの民とその神 (三)

江 原 萬 里

四 その宗教の特色

神は全地の民をしてその創造主を知らしめ、その救を完成し給ふため、先づ此の地上の一小民族を用ゐる彼等の歴史に神の偉大なる攝理を示し給ふた事を今まで述べ來つた。イスラエルの民の歴史中には現今世の多くの人が把持する史觀を以てしては到底説明がつかない不思議な事實が數多ある。我等は舊約聖書に記載せられてあるそれらの事實を精査し、彼等の預言者の史觀に照し、廣く全人類の歴史を觀るとき、そこに新に雄大なる世界觀を得る、全宇宙を創造し支配し給ふ神は全人類の歴史の神であり給ひ、之を導いて神御自身の御性質を顯はし給はんとして居給ふ神の攝理を知り得る。ギリシヤ人は其の優秀深遠なる哲學と美術とを

以て、又ローマ人は其の完備せる法制を以て世界歴史に貢獻し、第二十世紀の今日に至るまで其の惠澤に浴して居るのである。然るに微弱なるイスラエルの民が宗教を以て世界人類に貢獻した其の功績は決してギリシヤ人及びローマ人に劣らない。今後益々其の眞價値は歴史上に發揮されるであらう。元來人は生れ乍ら宗教的素質を有し、何れの時代何れの所に於ても宗教心のない者は一人だにない。現代人は無宗教であること云ふ。まことに彼等は無宗教である。されど彼等に確定した宗教こそなければ、現代程痛切に既成宗教に物足らなさを感ぜ、もつともつと深い根柢のある宗教を求めて居る時代はないのである。人間の靈魂の最も深い要求である神を求むる心程普遍であるものはない。此の宗教心からして種々の宗教が顯はれ、種々の神が拜せられる。現代の比較宗教學者はその研究に多忙である。此等の諸宗教は皆時代の産物であ

つて、時の推移と共に舊衣は新衣に更へられ、新らしき酒は新らし皮袋に盛られる。

然るにイスラエルの民の宗教には前に述べたやうに、其の中に永遠的眞理を包藏し、時代の變遷に由つて少しも廢らず、世の進展に従つて益々其の輝を放し、識者をして『人類最終の運命は結局來るべき時代に於てそれが聖書に對する態度に由り定まる』と云はしめる所以は何處に在るか。私は今までイスラエルの民の歴史に於ける其の特異性を述べ、數奇なる此の民族の運命のうち神の攝理を窺つた。此の民族の發生と存続との理由は實に彼等の宗教によるのである、彼等は民族と云ふよりも一宗教團體である。彼等の宗教が彼等を造り、彼等を存続せしめて居るのである。然らば彼等の宗教の特色は何處に在るか。イスラエルの民と其の神との關係に於て舊約聖書が提示する彼等の宗教の最も顯著な特色が二つある。その第一

は此の民と其の神との關係は契約關係であること云ふこと、第二は彼等の神は預言者を以てその民に神の攝理を示し給ふたと云ふ事である。以下少しく之を説明しやう。

一 契約關係

彼等の宗教の特色の第一である彼等と其の神との關係は契約關係であることは、イスラエルの神は全人類を創造支配し給ふ神であり乍ら、特に全人類の中から此の微弱な一小民族を選び別ち、之を『神の民』とし、神は特に『汝等の神』となり給ふた事云ふのである。此の關係は神自ら創定し給ふたのであるが又同時にそれはその民の承認を得て双方合意に由つて成立した契約の關係である。契約の原語ベリースの語義については多少の異論があるが、多分それは分割を意味し、契約を交はす當事者が其の契約上の義務履行を誓ふ儀式上犠牲に供した動物を分割し、其の間を通過し、若

し義務を履行せず契約に背反した時には、此の犠牲が受けた呪詛を己が身に受けることを誓つたことから來たものらしくある。

エホバこれを云ふ。犢を兩にさきて其の二個の間を通り我前に契約をたて乍ら却つて其の言に従はずわが契約をやぶる人々、即ち兩に分ちし犢の間を過りしユダの牧伯等、エルサレムの牧伯等と寺人と祭司とこの地の凡ての民を、われ其の敵の手とその生命を索むる者の手に付さん。其の屍體は天空の鳥と野の獸の食物となるべし

(エレミヤ記三四・一八以下)。

契約上の誓はかやうに嚴肅であり、他の約束と異なり戰慄すべき程の儀式で表示せられ、其の誓言は神聖不可侵であつて永遠不渝とせられる。若し契約の當事者が此の誓を破ることあらんか、契約の儀式に於て犠牲に加へられた呪詛が其の當事者の上に降下し、死は當然の罰である事を示すの

である。イスラエルの民とその神との關係は實にかゝる契約關係であつた。爰に他の諸民族の宗教と異なる特色があつた。

其の當時周圍の諸民族は悉くその民族の神を有つて居た。モアブ人にはケモシあり、アムモン人にはミルコムあり、チレの町には有名なメルカツトがあり、アハブ王とイゼベル后とが之をイスラエルの神として拜し、預言者エリヤ之に大反對をなしたのはそれである。此等の神は丁度我が日本民族の祖先である天照大神と同様に、その民と『我は汝らの神とならん、汝らはわが民となるべし』(レビ記二六・二)との契約に因つて始めてその民との間に神民の關係が生じたのでなく、民族の祖先たる神であり、民族は生れ乍らその神と血族的自然的關係に立つた。

然るにイスラエルの民とその神との關係の成立は神と民との契約に因り、當事者双方が此の契約

に誠實であることを、關係存続の基礎條件とする。神は常に此の契約に誠實であり、眞に信賴するに足る。そして民も亦此の契約に誠實であることを要求せられる。一度不信實であらんか、契約に由る呪詛は此の民の上に臨むのである。それ故に神と民との關係は嚴正なる道德關係であつた。此の契約によつて始めて神はイスラエルの民に種々の恩恵を與へられたのである。既に神と民との間に祖先とその後裔と云ふ關係が存在したために、例ば天照大神が皇孫に『豊葦原の中津國は我が子孫の往きて王たるべき地なり』との約束が生じたのと異なり、神は契約によつてイスラエルの民に種の約束をなし給ふたのである。

神と民との契約が人間同志の契約と異なるころは、神は常に契約上の主動者であり、民は常に之に服従を誓ふところに在る。神は民との契約に因り神の民イスラエルを創成し、又數々の恩恵を

約束し、常に新なる状態を創造し給ひ、民は之を承認し之に服従する事がそれである。神と民との契約中最も重要なものが二つある。その第一は神がアブラハムと契約を結び、其の子孫を以て新にイスラエル民族を造り、之にカナン之地を嗣業として永遠に與へ、彼等の神となり、彼等は其の民となるべきことを約束し給ふた事である。第二はモーセを通じて此の神に對してイスラエルの民は誠實に服従し、其の聖意を行ふことを約束せしめ給ふた事である。

選民の創成

エホバの言異象（イザヤ）の中にアブラムに臨みて曰く、アブラムよ、懼るゝなかれ、我は汝の干櫓（たて）なり。汝の資（たまもの）は甚大なるべし。アブラム言けるは、主エホバよ、何を我に與へんごし給ふや、我は子なくして居り（逝き）此のダマスコ（即ち我が家宰の子）のエリエゼル我が家の相續人なり……エホバの

言彼にのぞみて曰く、此者は爾の嗣子よつぎとなるべからず、汝の身より出づる者爾の嗣子よつぎとなるべし。かくてエホバ彼を外に携へ出して言たまひけるは、天を望みて星を數へ得るかを見よ、又彼に言たまひけるは汝の子孫は是のごとくなるべし。アブラムエホバを信ず、エホバこれを彼の義となし給へり。また彼に言たまひけるは我は此地を汝に與へて之を有たもたしめんとして汝をカルデヤのウルより導き出せるエホバなり（創一九章）。

之神が主動者となつて兩者の間に締結し給ふた契約の内容である。此の契約は嚴肅なる儀式を以て保證される。

彼言けるは主エホバよ、我いかにして我が之を有つことを知るべきや。エホバ彼に言たまひけるは、三歳の牝牛と三歳の牝山羊と三歳の牡羊と山鳩および雛ひなきいへ鴿はとを我がために取れ。彼即

ち是等を皆取て之を中より割き、其の割きたる者を各相對むかひはしめ置けり……斯て日の没る頃アブラム酣く睡りしが、其の大に暗きを覺えて懼れたり……斯て日の没いて黑暗となりし時烟と火焰の出る爐その切割きたる物の中を通す過れり之その儀式である。烟と火焰は神の臨在を意味す。神が此の切斷した犠牲の間を通過し給ふたのである。

此の日エホバ、アブラムと契約をなして言ひたまひけるは、我此の地をエジプトの河より彼の大河即ちユフラテ河まで爾の子孫に與ふ。彼の子孫は永久に約束の地を嗣ぐこの事である。神は又彼に約束し給ふた。

エホバの使者再び天よりアブラムを呼びて言ひけるは、エホバ諭たましたまふ、我已を指して誓ふ、汝是事を爲し汝の子即ち獨子を惜しまざりしに因りて、我大に汝を祝み又大に汝の子孫を

増して天の星の如く濱の沙の如くならしむべし。汝の子孫は其の敵の門を護らん。又汝の子孫によりて天下の民皆福祉を得べし（二三章）。

イスラエルの民は此の約束に由つて神の民となつた。神は己より大なる者他になければ、己を指して此の約束の實行を誓ひ給ふた。そして神は常に此の契約に誠實であり、常に此の民の神としてその困窮を救ひ給ふた。其の最も顯著な實例はエジプトからの救出である。

斯て時ふる程に……イスラエルの子孫その勞役の故によりて歎き號ぶに、その勞役の故によりて號ぶところの聲神に達りければ、神その長呻を聞き、神そのアブラハム、イサク、ヤコブになしたる契約を憶え、神イスラエルの子孫を眷み、神知ろしめしたまへり（出埃及二・二三）。かくて彼等は神より遣はされたモーセに率ゐられ、エジプトの壓制暴虐を脱し、紅海を渡り、乳と

蜜との流るゝ約束の地カナンを指して曠野に出たのである。此の時程イスラエルの民が現實に其の神の實在と能力と憐憫とを感じた事はなかつた。爾來彼等の祖先アブラハム、イサク、ヤコブの神はエジプトの苦役から彼等を救出し給ふた神である事を思出て神に信賴したのである。此の誠實なる神に對してその民も亦誠實に之に信賴し、其の善にして正しき聖意に服従する義務がある。これ第二の重大なる契約である。

十 誠

イスラエルの子孫エジプトの地を出て後第三月にいたりて其の日シナイの曠野に至る。……彼處にてイスラエルは山の前に營を設けたり。爰にモーセ登りて神に詣るにエホバ山より彼を呼びて言たまはく、汝かくヤコブの家に言ひイスラエルの子孫に告ぐべし。汝らはエジプト人に我がなしたるところを見、我が鷲の翼をのべて

汝らを負て我にいたらしめしを見たり。

此の恩恵によつて彼等は神のまことを知つた。

然らば汝等もし善く我が言を聴き、わが契約を守らば汝等は諸の民にまさりてわが寶となるべし。全地はわが所有なればなり。汝等は我に對して祭司の國となり、聖き民となるべし。是等の言語を汝イスラエルの子孫に告ぐべし。

舊約聖書中の最美の箇所の一つと云はれる美しい文字である。此の憐憫豊かなる神に對して彼等の重大なる義務が生ずる。民は之を承認し服從を誓つた。

是に於てモーセ來りて民の長老等と呼びエホバの己に命じたまひし言を盡くその前に陳べたれば、民皆等しく應へて言けるは、エホバの言ひたまひし所は皆われら之を爲すべしと。

契約の締結は崇嚴を極めた。

かくて三日の朝にいたりて雷と電および密雲山

の上に在り、又喇叭の聲ありて甚だ高かり、營に在る民みな震ふ。モーセ民を引いでて神に會はしむ。民山の麓に立つに、シナイ山すべて煙を出せり、エホバ火の中にありてその上に下り給へばその煙かまごの煙のごとく立ち上りて山すべて震ふ。

此の時民が『神に對して祭司の國、聖き民となる』ため『エホバの言ひ給ひし所はわれら之を爲すべし』と『皆等しく應へ』たところの契約がモーセの十誡である。十誡は二部からなる。第一部は神に對する誠實であり、第二は神の聖きが如く聖く隣人に對する義務がそれである。

一 汝わが面の前に我の外何物をも神とすべからず。

二 汝自己のために何の偶像をも彫むべからず

三 汝の神エホバの名を妄りに口にあぐべからず。

四 安息日を憶えてこれを聖潔くすべし。
五 汝の父母を敬へ。

以上は神に對し、只エホバのみを眞の神として拜すべしとの誠命である。父母は神の地上の代表者として之を敬へとのことである。次は神の民として神の聖きを自己に實現して隣人に對すべき事を命ずるものである。

六 汝殺すなかれ。

七 汝姦淫するなかれ。

八 汝盜むなかれ。

九 汝虚妄の證據あかしをたつることなかれ。

十 汝貪るなかれ（出埃及記二〇・三―一七）。

數語を以て宗教と道德との要諦を道破せることに眞に驚くべきである。其の道德上の命令の包含する内容の豊潤にして後世之から浩瀚な誠命が生じた、それが爰に僅小の語に要約されて居るのも亦驚嘆に値する。然し乍ら此の十誠の眞價値は宗教と道

徳とが有機的一體となつて提示せられ居ることにある。イスラエルの民の宗教は道德を離れてない。然かもその道德は彼等の神を拜する宗教から来る。然かも彼等がその神のみを神として之に仕へ、偶像を拜しない義務は神が彼等に對する契約に誠實であり給ひ、常にその民を顧み憐み給ふ恩恵に基く。此の嚴肅を極めた十誠は實に神がその民をエジプトの暴虐から救出し給ふた恩恵の記憶まだ新鮮なる時に與へられたのである。神の此の愛ありて『なんぢ心を盡くし、精神を盡くし、思を盡して主なる汝の神を愛すべし』(マタイ傳二三・三七)との第一の誠命が生じ、此の義務からして『おのれの如く隣を愛すべし』との第二の誠命が生ずる。イスラエルの宗教の特色の第一は實に爰に在る。他の宗教は道德との關係が密接でなく、兩者之を切り放つ事を得るのに反して、イスラエルの民が其の神に仕へる道は道德を離れて他に存しない。

多くの宗教が儀式を重じ、儀式を度々壮大に舉行する事を以てその神に仕へる道と思惟する時、モ一セに十誡を授け給ふた神は隣人に對して正しく行ふ事が神に仕へる最上の儀式であり、義である事を示し給ふたのである。

さればイスラエルの民が此の契約に背き、十誡第一部に命せられたその眞の神を拜せず他の偶像の神々に仕へる時、必然に第二部の道徳に反するやうになるのである。彼等は神との契約背反の呪詛を受け、先づ其の民族の道徳が頹廢する。そして其の民は棄てられ國は滅びるのである。北方のイスラエル國がアツシリアに滅ぼされてイスラエルの十二支族中十族が捕囚となり、次で百餘年の後に南方のユダ國も亦バビロンのため滅ばされ、残る二族も亦ユウフラテス河畔に捕え移されたのは實に彼等が此の契約に反し、彼等の眞の神を棄て偶像に仕へたため契約に基く神の刑罰であつた。

人が眞の神を拜するか偶像に仕へるかは直ちに其の生活に反映する。社會道徳の腐敗墮落、國家の衰亡の跡を探り求める時何れの時代何れの國に於ても其の最深因はこゝに在る。

私は更に進んでイスラエルの民の亡國に至るまでの此の民の背信と墮落とを述べ、イスラエルの宗教の第二の特色である預言者が神の代言人として如何に之を明白に示し、その亡國に先つて神の刑罰の降下の必然を警告し、且つ神は此の民との契約に誠實であり給ひ、遂に此の民のうちに大なる救を來らしめ給ふことを預言した其の事實を語らねばならない。

神の大經綸と福音

藤本武平二

世に大事業と稱せらるゝものは幾つもある。然し、神が宇宙を舞臺として創め給ひし大經綸を思ふ時他の如何なる出來事も問題となり得るものはない。而して聖書はその卷頭に於て『元始はじめに神天地を造り給へり』と筆を起して、神が天地を創造し、其一角地球上に神に象りて人類を造り、神の國の義と愛と永生とを實現し給ふといふ神の大經綸を誌るせる世界最大の書であつて世に書籍多しと雖も聖書に優る大事實を記載せるものはあるまい。世界の書物悉くが亡せても聖書一卷さへ残れば吾々の生命問題には故障を來さない。萬卷の書を讀破するよりも聖書を讀んで聖旨を知る方が遙かに優つてゐるのである。

多くの人は思つてゐる、『元始に天地あり』と。

然るに聖書は教へていふ『元始に神天地を造り給へり』と。人の觀方と聖書の教うる處とは既に其第一歩に於て根本的に相違してゐる。一つは天地を以て自主獨立のものご考へ、一つは天地は造物主によつて造られた被造物なりと教へる。然し天地が自らの努力により自らを産み出したものでない事は明らかである。又天と地とはその造らるゝ様式を事を神に希望せし事もなく又その造らるゝ様式を神に願ひ出でた事もなかつた。天と地とは唯神の御意のまゝに神御自身の發意によつて造られし何の獨立性もなき神の隸屬物であつて、神御自身の大經綸を行ひ給ふための存在物たるに過ぎないのである。宇宙に自然法則なるものあつて日月星辰森羅萬象秩序整然たる運行をなすつゝあるの故を以て天地に獨立性ありと見做すものあらば、是れ神が天地に賦與し給ひし性能と永遠に在まし給ふ神の御手の働きとにより神の創造の大なる御經綸

が今も尙繼續しつゝある事を忘却したる者であつて無智も亦甚だしといふべきである。

人も亦神に造られたものである。恰も天と地とが願はず求めざるに、神の御經綸のために造られしが如くに、人も亦求めず望まざりしに神はその榮光を現はし給はんこの大御心より、その像の如くに人を創造したまうたのである。

近代人はいふ、神とは人が觀念的に造り上げし抽象的存在である、人が肯定すれば存在し、人が否定すれば消失する。人が主であつて、神は人によつて創造せられたものである。かくの如き考へ方は舊に近代人のみでない、熱心なりと稱せらるゝ基督信者の多くは、自らは識らずして同じ方向に向つて進みつゝある。熱禱を献ぐるを稱して神に我意を強要し或は聖旨は斯くあらざるべからずと自己の勝手な解釋を下して神を左右せんとするの類は、神を單に便宜上の一方便として唱へた

るに過ぎずして、聖旨に従はんとはせず我意を貫かんとする者である。故にかくの如き人は造物主としての神を信せず、自己を信する者である。

『元始に神天地を造り給へり』この聖書發端の第一句は蓋し聖書全體を一貫せる大眞理を提唱したものであつて、この内に信仰の如何なる内容のものであるべきかを明かにしてゐる。神は能動的であつて天地人は造られたものであり受身である。神は初めから能動的に宇宙の大經綸を進めつゝあり給ふ、神は人が罪の故に平和を得ず死の惱みにあるを見て、キリストを送り給うた。當時ユダヤの人々はメシヤの出現を待ち望んでゐたが、眞にユダヤ人を救ひ給ふ事のできるキリストをユダヤ人達は拒んだ、そして異邦人たる吾々は望まず求めざるに、神の方から進んでメシヤとして彼を送り給うたのである。即ち神は常に能動的に萬物に働きかけ給ふ。人は常に受身であつて神の御經綸

の對照物の一つたるに過ぎない。故に神が人を救はんとして、神の方から進んで人に近づき、天に引上げんとし給ふのである。神が其獨子イエス・キリストを人に送つて人を贖ひ給うたこの喜びの音づれ、即ち福音は神より人への嘉信なのである。之に反して被造物たる人間の自分を過まり、人が自らを大いに修養し、道德を學び、哲學を鍊り、宗教を構成し、人の方から神に達せんとする者が數多ある、儒教といひ、佛教といひ皆是れであつて、福音の逆コースを行く者である。

基督教は神より人へのコースをこるものであつて徹頭徹尾福音である。神の大經綸を行はんが爲めに造り給ひし人々が神を離れて、人より神への逆コースをこり、神への反逆を敢てする時、凡ゆる努力が遂に失敗に歸すべきは當然である。神の御旨の成らんが爲めに、被造物たるの自分を識つて、神が人に働きかけて遂げ給ひし十字架の救ひ

を唯從順に受け容れて、神の御經綸を全からしむる事は人が最大の義務である。逆コースを取り修養と行爲とによつて成さんとして能はざりし事は、神に依り奉るのみにより、神の御手は人の中に働いて容易に之れ等を成就し、人の思ひに優る榮光を現はし給ふのである。

天文學は教へていふ、宇宙は無限なりと、進化の道程を辿りつゝある今日の吾々の小さき頭腦を以てしては到底宇宙の大を想像する事すら不可能である。然るに神はこの大宇宙を創造してその大なる經綸を進めつゝあり給ふ、而してその神が地球上の人類を愛して救主イエス・キリストを下し永生に入るべき道を開き給ふといふのである。嗚呼神の大なる經綸殊に人類の上に現はし給ひし愛を何と感謝してよからう。

クロムウエルの生立ち(上)

自叙

江原萬里

英國清教徒革命の指導者であつて、王政を顛覆して共和政治とし、その共和政治を革めて獨裁政治とし、遂に『大英國の護國卿』The Lord Protector of The Commonwealth と云ふ稱號の下に無冠の帝王となりましたオリバー・クロムウエルは千五百九十九年の四月二十日英國東部の片田舎なるハンチングトンに生れました。彼が後年護國卿となつて召集しました議會で自分の閱歷を簡單に述べて申しました。

余の生れは郷土であつた、顯榮と云ふ程ではなかつたが、さりとて卑賤の者でもなかつた。

余は國のため種々なる任務に服した。そして倦怠を感じないために、一生懸命一個の正直

な人間として、神とその民の利害のため、又英國の爲に、その義務を果さうと勤めた。

此の簡單なる自叙の言の内に、その生立ちよりして公生涯全體に亘るクロムウエルの精神が要約せられて殆ど餘すところありません。彼は何よりも先づ、一個の眞面目なる正直なる人としての義務を果さうとして一生懸命であつたのであります。そして次に彼は彼の信する神に仕へ、神の民、即ち、神が神の御國を地上に建設してその榮光を輝かしめ給ふために、その器として選り別ち給うた人類中の特選の民、換言せば當時清教徒の利益のために、己が責務を果さうとしました。そして第三に、彼は己を産んだ英國の共和政治のためにその義務を盡くしたのであります。

第一より第三に至る此の順序は、彼の行動の動機の重要さを示します。それは又彼の生涯の活動の範圍が一農士として其の近隣のために盡したこ

ごから遂に一國の無冠の帝王となり、歐洲大陸の新教諸國の聯盟を企て世界に英國の名聲を揚げた。その過程をも示すものであります。

護國卿オリバー・クロムウエルは始めから大政治家になろうとして一生その目的のために働いたものではありませんでした。又彼は大政治家となつた時すら、古來の大多數の政治家と全く選を異にして居ました。それは、彼自身が申しましたやうに、彼は何よりも先に一個の正直な人としての義務を果さうとしたことであり、第二に英國のために盡くすよりも、神ごその民の利益ごのために盡さうとした事であります。それ故彼は大政治家であり英國のために働き乍ら、それよりも大信仰家であり神ごその民ごのために働きました。然かも大信仰家であり乍ら、それよりも尙正直なる一個の人間としてその義務を果さうとしました。この事が彼の一生涯を解く鍵であります。

當時清教徒革命が勃發しましたのは、前申しましたやうに、革命の物的基礎として國民一般の生活上の不満ご心的基礎であります比較的少數の清教徒の信仰壓迫に對する反抗ごの共同的爆發でありました。そして此の革命の眞の指導者となり、『神ごその民の利益ごのため、又英國のために、その義務を果さうと勤めた』クロムウエルにごつては、この『神ごその民の利益』即ち清教徒の信仰の自由確保の方が遙かに『英國のため』よりも重要でありました。然し乍ら彼は此の宗教問題に對しまして彼自身が申しましたやう、『一個の正直な人としての義務を果さうと勤めた』のであります。こゝに彼の眞相を發見します。そして此の事が清教徒の利益を計りつゝ、彼らの專横ご頑信ごを抑制し、眞實に神に仕へやうとしました。それ故彼は英民族のために盡くし、その議會政治を確保しやうとしつゝ、國民中多くの者に誤解せられ、

又清教徒の信仰の自由を確保し、彼らの利益を計りつゝ、彼らから猜疑の眼を以て見られるやうになり、無冠の帝王として全英國に君臨しつゝ、敵は味方の中にも在り、彼は甚だ狐獨でありました。

かやうにクロムウエルが清教徒の利益を計り乍ら、彼らの頑迷狹隘専横を抑制し得たのは、彼の正直からであり、その正直は常に理論に捕はれず、實際に即して何が最も神意に適うかを考へたところにあります。彼はいつでも事實の内に神の御手の働きを見やうとし、理論によらず、いつでも實際的でありました。神は現實に此の世界を支配し給ひつゝある。事の成敗は神意に因る、とは彼の確信でありました。それ故彼には先入の指導理論がなく、機に臨み最善を盡くしました。或る意味で彼程の臨機應變主義者はなく、之がために人に疑はれたのであります。

然し乍ら彼の臨機應變前後矛盾は自分の利を計

つたからでなく、彼にあつては餘りに正直であり、且つ事實に即して神の御指導に従はうとしたからであります。されば彼は遠大な計畫の下に自分の一生を導いたのでなく、事毎に目前生起の事實に即して、熱心誠實に何が神の御意であるかを知り、之を行はうとして、次第次第にその活動の範圍が廣まり、社會的位置が高まり、全英國の政治に參加し、之を指導し、英國と英國民とのために盡くし、國運の進展を計り、遂に現今の世界的大帝國の基礎を築き、英民族の領土には日没がないと誇るやうにならしめたのであります。然かも己は數奇なる運命に導かれ、彼程の誠忠無二の者が王の弑害者となり、彼程の立憲主義者が獨裁者となり、彼程顯榮をきらつた者が常に『無冠の帝王』と稱せられるやうになつたことであります。

凡そ世にか程まで正直であり、敬虔であり、又愛國者であつたオリバー・クロムウエル位永く偽

善者、野心家、國賊の汚名を蒙つたものは史上眞に珍とするに足りません。彼の同時代の史家の批評は無理解の甚だしいものでありまして、彼の敵であります王黨の史家クラレンドンによれば、彼は『勇氣に富んだ悪人』でありますが、その勇氣にはクラレンドン自身も賞讃せずには居られず、此の王位潜奪者は『あらゆる奸惡をもつて居て、それに對しては呪詛は宣告され、地獄の火が待つて居る。それでもある種の徳があり、ある人々には永く賞讃し記憶される』と云ひ、最初は味方であつた共和主義者のラドロウは、オリバーのやつた『改革は皆自分を高める企て以外何もものもない、彼は公事を自分の野心の偶像に犠牲として献げた』と云ひ、彼が居なかつたならば、英國には急速に黄金時代が現出して居つたらうに、彼の野心が國民全體のこの期待を見事に打ち毀してしまつたこと云つて居ます。

そして彼の次の時代も亦一般に同様の意見で、彼は外は敬虔を装ひつゝ、内は『奪ひ掠む豺狼』の野心を藏し、自分を高め、全英國の權力を一身に掌握するため、巧妙な計畫を有つて居て、然かも之を實行するに當つては、聖者が神の命に強られ、神のため、國のため、一身を犠牲として立つたやうに見せかけたこと云ふ批評が死後二百年の間殆ど確定不動でありました。然るにカーライルが『オリバー・クロムウエルの書翰及び講演集、附たりその解説』と云ふ劃期的の出版があり、彼は『虚偽の人でなく、眞實の人』であることを明かにし、偽善者であることの批評を一掃して以來、何人も之を否定する者がなくなつたのであります。

祖 先

『余の生れは郷士であつた。顯榮と云ふ程ではないが、さりごと卑賤の者でもなかつた』とクロムウエルが謙遜して申しましたやうに、クロムウ

エルの家門は英國の名家の流を汲み、その祖先には史上有名の人を出しました。

現代の遺傳學の研究では、我らは我らの性質の幾何を父祖に負ふかを確定することは不可能であります。然し優秀の者の子孫には優秀なる者が多いことは疑ひの餘地ありません。クロムウエルの曾祖父は、嘗てヘンリ八世の時王の宗政を代理し、ロマ教會よりの離反、殊に全英國の五分の一の收入を有する僧院財産の沒收を敢行して蠻勇を發揮しましたトマス・クロムウエルの甥にあたるリチャード・クロムウエルでありました。リチャードは伯父が鐵腕を振ひ過ぎ失脚死刑の後も王の親任厚かつた人でありました、當時宮廷ではトマス・クロムウエルの死に同情する人は殆どありませんでしたが、彼唯一人之を哀しみ、喪服を着用して大膽にも王の前に出仕しました。然し王は彼の伯父に對する純情と誠實とを嘉みして之を怒らず、

反つて篤く彼を信任されました。彼は武勇に秀で、多くの領地を拜領し、その家門は繁榮しました。

リチャードの子ヘンリはエリザベス女王の時スペインの無敵艦隊來寇に際し、純福音擁護のために卒先して多額の軍資金を献上して『黄金ナイト』と云はれました。それはその持てる財産を措しもなく國のため隣人のために使用したからであります。彼の娘の一人は後年チャールズ一世の處刑狀に署名したエドワード・ファレー少將の母となり、他の一人は海防稅納付拒絶で全國民の血を沸かしたジョン・ハムブデンの母となりました。

彼れに男子二人あり、長男はオリバーといひ父の物惜しみしない性質を餘分に承繼ぎ、外見坊でデエームス一世がスコットランドから始めて英國王となつてロンドンへ行幸の途次、彼の邸に駐輩された時は盛に金銀を撒布して之を歓迎しました。かやうのわけで彼の家門は傾き、その所有地は人

手に渡るやうになりました。チャールズ一世の時の内亂には終始王黨に屬しました。

次男のロバートは別家してハンチングトンに住しました。着實温健眞の清教徒でありまして、見と餘程性質を異にして居ました。家督は年三百ポンド（現代では三萬圓位になるでしょう）程ありました。

私の語ろうとするオリバー・クロムウェルは此のロバートの子として生れました。彼の母をエリザベスと云ひ、その里はスチュワードと申しました。

それがため度々スチュアート王朝の血統を引いたものご間違へられ、同じ血統内の者が王を殺害したと言はれましたが、母の里はノーフォーク州の中産階級スチュワード、元スタイワード Steward でありましてスコットランドの王家スチュアート Stuart とは全く別ものであります。

母は長壽を完うし、千六百五十四年クロムウェルが護國卿となり、白亞宮に移りました時にも、

老いたる母はそこに共に住みました。然し母は子の顯榮の地位につくことを少しも好みませんでした。そして常に己が愛する子の事業の成功につき危惧の念を壞き、度々小銃の音がすると、クロムウェルが暗殺されたのではないかと心配し、一日少なくとも一度は子の顔を見なければ安心しなかつたと傳へられて居ます。白亞宮に移り住んだ年の秋、九十四歳の老いたる母は主に在つて眠りました。その死する數日前、子を祝福して申しました。『主が御顔をお前の上に輝かして、どんな患難の時にでも慰め、いと高き神の御榮のためお前に大きな御仕事をなさしめ、主の御民らの援けなさしめ下さいます。わが愛する子よ、お前に對する私の心はいつも變りません。御休みなさい』と。この言で此のやさしい母がどの位深く子を愛し、その子の高貴な目的に同情して居たかを知ることが出来ます。（つづく）

聖書的現代經濟觀序

江原萬里

本書に収録するところの長短凡そ三十篇は、我等信仰に由つて生くる基督者は現代の經濟社會を如何に觀又此の内に在つて如何に生活するか、聖書は之に就いて何を教ゆるかの問題に關する感想及び論說である。

聖書は云ふ。『よづ神の國と神の義とを求めよ、然らば凡てこれらの物（生活必需品）は汝らに加へらるべし』（マタイ傳第六章第三十三節）と。然るに古き經濟學は云ふ。『人は皆己が利害を最も良く知る。されば各人皆自由に自己の利益を追求せば全社會の福祉は最も良く増進する』と。それ故純然たる利己的人物を假想し、其の自由なる營利的行動こそその結果を研究したのである。是カーライルが罵倒した豚哲學である。聖書の經濟觀と相去

ること西の東から遠きが如くである。

此の經濟觀は現代に於てマルクスの社會主義が繼承發展せしめた。彼は社會組織の基礎を衣食住に在りとし、之を生産する生産力の變化が社會を改造する。その上層建築なる道德宗教文化は皆此の生産力の發展に従つて變化する。されば勞働者が衣食のためにする凡ての鬭爭的行動は人類に眞の自由を齎らす所以であること。

然るに輓近の經濟學の趨勢は次第に聖書の經濟觀に接近しつゝある。進歩せる經濟學は最早社會主義又は自由主義を唱へない。社會制度でなく社會其の物の進歩、物の量でなく人間の自由を唱へる。『安息日は人のために設けられて、人は安息日のために設けられない』（マルコ傳第二章第二十七節）ことを認める。嘗てラスキンが云つた、

生命以外に富はない——愛し喜び崇ぶ力の凡てを含む生命がそれである。

富ますらなは丈夫が有つ價值ある所有物である。

ことを否認しない。近代の英國經濟學の泰斗アルフレド・マーシャルは云ふ。

經濟學は輒近次第に人間の福祉研究の一部となつて來た。其の精神はプラトローの論語のそれに近づき、其の色々な研究方法はベーコン、ニュートン及びダーウキンのそれに近づいた。

然り、現代生活の最大強敵は貧乏ではない。『貧しき者は常に汝らと偕に居れ』（ヨハネ傳十二章八節）である。現代の最大脅威は靈的貧乏に在る。今から五十年前に比べて、我等の物的生活は一變し、其の豊富になつた事は驚くべきである。電信電話ラヂオ、汽車汽船電車、電燈瓦斯石炭、活動寫眞にカフェーにバー、我らは數片の白銅貨を以て一日の娛樂に耽けることが出来る。然かも人に少しも満足はない。他人が自分より餘計に楽しむことを憤り、自分は他人よりも餘計に楽しむことを誇

り、互に嫉妬、猜疑、分離、鬭爭、掠奪、殘害をして居るのである。此の靈的貧乏の往く先は滅亡以外にない。

『人の生命は、所有みぢものの豊なるに因らない』（ルカ傳第十二章第十五節）のである。さらば今後此の地球を相續する者は誰か、如何なる民族が此の地を嗣ぎ得る。

嘗てロマ千年に亘る大帝國の存續は決してその武力に由つたのではない。史家ニブールの言ふ如く『矛を以て獲た土地は矛を以て失はれる。唯鋤を以て獲たる土地は失はれることがない』と。『幸福なるから、柔和なる者、その人は地を嗣がん』（マタイ傳第五章第五節）である。

武を以てせばユダヤ人は地上最微の民族である。彼等は周圍の民族に征服せられて一度ならず國滅び、民は他國に移され、今尙世界に四散し流浪してゐる。然かも往時の大帝國と大國民とが今や悉

く跡方なく滅亡したに拘はらず、此の民族のみが尙世界的な勢力として存続して居るのは何によるか。彼等の商才によるのではない。實に彼らの信仰に因る。

英國民が今日日没を見ない大帝國を建設したのも亦決して彼等の商才ではなかつた。由來アングロ・サクソンは決して商業的天才ではない。然るに英米兩國が世界産業界の指導者たり得たのは彼等の祖先に清教徒があつたからである。

今や時代は大平洋を圍んで世界の諸勢力が東洋に集り、互にその優越を競ひつゝある。孰れの民族が將來此の地の承繼者となるであらうか。日本國民の將來や奈何、私は確信する、我が國民をして此の大平洋時代に民族としての使命を完うせしめるものは主イエス・キリストを信する信仰である。信仰が今も昔も此の地を嗣ぎ得るのである。之私の云ふ聖書的經濟觀である。

女子基督者の結婚難

現今眞面目な基督者である年頃の女子は殆ど皆結婚のこゝとて惱んで居る。彼等の両親は大抵不信者であつて信仰のことには無理解である。娘の夫を選ぶに從來の慣習に由る外何の標準も有たない。然るに娘の方では何よりも先づ善き基督者たる青年を求め、彼女たちの悩みは信仰に熱心であればある程深い。

まことに此の惱は同情に値する。それは彼の女たちの願は殆ど適へ得られないからである。現代日本の若い青年で眞に善い基督者は稀有である。自ら基督者と稱し熱心に祈り教會に通ひ聖書の知識を多量に有する者でも安心は出来ない。今の青年には眞の操守がない。少しの困難や誘惑に直ぐ背教者となる。それのみでない。眞實の基督者の數の甚だ稀少である上に男女間の交際の範圍は甚だ狭小であつて互に知ること甚だ困難である。かゝる中から夫を選ばんとするのはまことに氣の毒である。

基督者である立派な青年を選ぶに越したことはないが、若しそれが出来ない時には身分とか學歷とかよりも先づ正直な人物を選ぶべきであると思ふ。自稱基督者より此の方が生涯の伴侶としては確實である。

柏 木 通 信 (第六信)

齋 藤 宗 次 郎

○柏木の小變化 此四月末を期して所謂預言寺なる家屋を、獨立せる一住宅の形に區劃さるゝこと、なつた。隨つて内村全集編輯の事務は、恩師宅の階上に於て執ること、なつた。今後我等は後庭を飾る櫻楓等の若葉青葉紅葉を眺めながら業務に従事するであらう。回顧すれば、上なる八疊間は、久しく恩師の書齋とし、又研究会入會者の受験場として、色々の尊き記憶を人々の心に留め、下なる八疊間は、十萬冊に近き研究誌を、日本國の内外に送り出したる勞働場として、永く忘るゝことの出来ない意味深き紀念室となつた。次に純福音の宣明に不滅の史蹟を遺せし今井館は、舊内村聖書研究會員たりし凡ての教友が必要に應じて自由に使用し得る様内村家の篤志に預ること、なつた。主の命じ給ひし新しき誠の實現の爲に凡てが改善され行くを喜ぶ。

○日曜日の集會 安息日の禮拜は、基督信者の有つ無比の特權である。全靈全信を獻けて父なる神と其御獨子の十字架のみを欽仰し讚美する信者の上に基督のみの主權恩寵

の行はるべき所である。然るに千數百年の長き間、極めて僅少なる信徒の外は、かの執拗なる惡魔に、可惜其精神を搔きむしられて、儀式中心、説教中心、學究中心、乃至音樂中心、獻金中心に墮し去るに至つた。靈界の處女地として前途有望然り責任重大の日本民族までが、其變態に甘んじ既に掌上の聖書に明示せられながら、敢て生命の活泉を其儘直接に汲まんとすることをせざるは誠に遺憾至極である。我等恵まれて、直ちに基督の生命を受けし者は、見ゆる所に因らず、又舊習に従はず、尊き獨立自由の信仰に導かれ、相共に安息日の禮拜を守り得るは無上の感謝である。我れ今此一事を特記するは、來らんとする光の日の豫感衷に燃ゆるものあればなり。其後日曜日の集會に於て、代表者たる數名の祈禱の外に左の如き感話があつた。

野の試み

恩師を追想す

内村先生の信仰

哥林多前書

基督者の信仰生活

神の愛の計畫

哥林多後書

神の攝理

大島 正健

藤本重太郎

藤本武平二

小栗 襄三

齋藤宗次郎

山榊 儀市

小栗 襄三

大島 正健

○洗足會例會 四月二十六日午後一時、今猶武藏野の面

影を留むる西萩窪在の秋元梅吉氏宅に開かる。麥圃の彼方に五彩を織りなす木々の若葉の美觀を賞しつゝ、一汁一菜の中食を味ひて後、盲人秋元氏司會。三〇八讚美、哥前一章朗讀、祈禱に次いで、人を中心とする時に黨派起る。只十字架を仰ぐ時に萬事解決す。基督に於てのみ眞の平和と喜びありの所感。二、予、責任は神の賜物である。ヨリ大なる責任を負ふて、主によつて之を果すべきである。三、青木庄藏氏。來十章朗讀。苦難を嘗めて信仰を維持し來りし實話。四、藤本武平二氏。此頃舊き研究誌を讀んで先生力ある實驗の聲に感じた。信者は小基督となり一生涯苦みを耐えて行くにある。五、藤本重太郎氏。信仰あれば惱みを蹴つて邁進することが出来る。六、渡邊五六氏。神戸蘆屋なる座古愛子老師を訪問し、壯者を凌ぐ若々しき信仰の力によりての活動振りに感ぜし話。伊藤、永井、藤澤の三氏祈つて、三〇一讚美。四時半散會。歸宅に先だちて點字印刷工場に案内された。日本に於ける點字印刷技術の權威者なる伊藤福七氏（盲人）の實驗と説明とは、目明きの我等を敬服せしめた。明治二十七年始めて米國クーバー會社の機械到着するや、劈頭第一に印刷せしは約翰傳であつたと聞いて、光は闇よりの暗示を受けた。製本室の三面に

は、舊新約全書及び羅馬書の研究の原版が整然列を正して保存せらるゝのを見た。人知れぬ處に於て祈りつゝ、營まる此種の事業は、日本國の眞價を支持し行くのである。

○紀念會の感謝會 前號に記載せし如く、内村先生の一周年紀念會及び講演會、晚餐會は何れも主の御手によりて始終せられた。假令短き時間、狭き範圍の中になりとも、御心の天に成る如く地に成りしを觀る時に之に優る歡びはない。祈を聴き給ふ神は、其子等の只管に呼び求むる聲に應じて、時々刻々に途を開き眞と生命とを與へ給ふた、此恩惠の事實を味ひ、其時々々各自口々に神を讚美せしは一同の尊き經驗であつた。國の内外に散在する同信の友を代表して高壇に、會場に、受付に、街頭に立ち働かし我等は此際感謝の心を新たにし、之を合せて主に捧ぐるは將に爲すべきの祭である。四月二十七日午後六時半、柏木今井館に開會。粗末なる大卓二基に白布を蔽ふて、其上に二個の花瓶を据ゑ、之を圍んで二十八名對坐した。滴る愛、漲る望、燃ゆる笑み、去年今日に比して何等の相違ぞ、語らず言はず其聲聞えざるに、妙なる響きは堂に満ちた。眞に聖靈のこよなき憐みの力に因る。飽くまで洗足の勞に當りし名古屋氏の、急速の買ひ出しによつて整へられし晚餐は、

感謝の祈に始まり歡談の間に進められた。敢て佳肴珍味を要しない。足るを知るの心である。衣食住の事は凡てあつさりするを肝要とする。餐後の會計報告にも大なる恵みを感じた。八時、畔上賢造氏。辯士としての困難を述べて聴衆の同情を求め。更に大阪に於ける紀念會の活氣と熱心に富める模様を報じて前途の輝きを示された。次に淺野猶三郎氏。最近恩師の墓畔に立ちて思ひ出したことは、自分が傳道の門出に於て狂奔の勢を示した時に、恩師は其手綱を堅く握りて教訓を垂れ、常に靜かなる信仰の道を歩まして呉れた。先生は弟子の心を克く察知し、適當なる導きを與へられしは實に有りがたきことであつて、幸私の今日あるは全く其愛に因るものと強く感ずることであるとの感想を語られた。三谷、寶田、予の感謝の祈禱の後に、大島老先生の述べられし札幌在學時代の懷舊談は一同の顎を解き、初代信徒の天眞と意氣とを慕はしめた。一定の型に據らずして、内に和氣溢れ、外に規律正しき集會の恵みを味ひ得るは、是又恩師の訓練の結果なることを常に感ずるものである。雜役を負ふ名古屋氏と予とは、十時半一切の清算に信仰の勝利を感謝して講堂の門戸を出た。

○地方雜信 東京の教友間に神の起し給ふ事實を、地方

に報ずるのは楽しいことであるが、地方に點在して特別な神の御守りの下に活動する教友の狀況を、中央にて聞くのも甚だ嬉しい。其實を通信に書き加へることを許して貰ひたい。千葉縣鳴濱村の海保竹松氏は、一方基督者として選ばれたる使命を尙び家人村民の間に十字架の福音を傳ふるに専念し、一方農家としての職能を重んじ、多くの青年に對して、土壤を愛し業を守るの精神を養ふと共に、普通作物の改良を始め、有利蔬菜の栽培、養鶏等の獎勵及び其販賣の道を講ずるに努力して止まない。ヤレ米國式、ヤレ丁抹式と、徒らに聲を高くし形式を壯にするとも、根本的精神の上に築かなければ、凡ては徒勞の業である。眞理の根源は唯一つ、政治も經濟も教育も實業も、悉く基督の義と愛の生命に浴して始めて解決し結實するのである。十餘年振りにて同地を訪問せられし恩師夫人が、歸京後の貴重な土産話であつた。予は地方同志の極めて健實なる活動の様子を聞いて感謝した。尙此他の地方よりも幾多の喜信に接して、基督の爲め國の爲に快哉を唱へざるを得ないものである。神若し許し給はば、今後號を追ふて其眞相の一端を報ずるであらう。誠に謙遜のある所に希望は與へらる。神の約束は永遠に變らない。

編輯餘録 主筆

○新緑満山、眞紅のつつじや薄紫の藤の花が其の間を點綴して生命は天地に漲り美は溢れて居る。私は近頃稀らしい観物を見つゝある。二月程前子供が悪戯して火をつけて燃え上つた庭の棕櫚と玄關側に害虫に蝕まれて葉が殆ど皆萎んで仕舞つた、もろの樹が最早生命なきものと思つて注意して其の枯れゆく様を視て居たが、近頃に至つて二つ共新芽を出し棕櫚は花が咲き出た。私は春に際會して生命の力のごんなに根強いかに驚嘆した。

○それだけではない。私は私自身に一つの奇蹟を経験しつゝある。最近私の病氣は悪化し私は死を覺悟して一切を我が教主キリストに托した。然るに驚くべき事には私の元氣は近來になく盛かなり、心の中から大きな希望が輝き出し、身體も亦次第に調和を得、一ヶ月に體重四百目を増し、今日は六年目に背後の山に登ることが出来た。何と云ふ奇蹟であらう。私は死の宣告を聞いて生きたのである。○私は山上松林の間から心ゆくばかり初夏の海を眺め、又新緑に覆はれた相模の山々の上薄霞のうちに聳ゆる富士の山を仰ぎ、空高く

轉つる雲雀の聲を聞き乍ら、俊基朝臣の古墳の側の芝生に坐して聖書の經濟觀の校止をした。私が、こゝに來たのは丁度滿五年目である。其前は内村先生が御夫婦で訪ね來られ先生と一緒に此の山に登つて此の海を眺めて語らつた。あゝ、五ヶ年は経過した。今日只獨り此處に來て感無量である。何かしら我が胸に滿ちるものがある。歡喜でもあり憂愁でもある。こんなのを *divine sorrow* だとも云ふのか。

Tears, idle tears, I know not why,

Tears from the depth of the divine sorrow,

Rise in my heart, gather in my eyes,

In looking on the early summer sea,

Or thinking the days that are no more.

美はしき自然、漲る生命、戰を終えて逝きし人、遺つて獨り此處に來りし我が妾、去りにし日はなつかしく、來るべき日は暮はしい。○内村先生の札幌時代から終生最も親しい友の一人であられた北海道帝大名譽教授理學博士宮部金吾先生から書信に添えて『書翰に現はれた内村鑑三君』の寄稿を得て深く感謝した。之は札幌獨立教會の教報に載せられた博士の講演を博士自ら加筆修正されたものである。之を讀んで内村先生の青年時代の有様が

よくわかり、盡きの興味がある。書翰程其の人格を良く現はすものはない。まして親友に宛てたものおや。

○過日聖書研究社で内村先生の一周年記念のため編纂された『内村鑑三追憶文集』に載せられた先生の無教會主義に關する遺稿一篇は注意する價値が多い。本書には宮部先生の内村鑑三君小傳あり、先生の生涯の骨組を知るには現在之以上のものはない。其の他大島先生始め内村先生の友人及び弟子の追憶文五十餘篇あり、各人夫れ夫れ觀るところ語るところを別にして先生の面影を窺ふに最も良い書である。

○鎌倉聖書塾は九月末まで休まなつた。これからは私は二階の書齋の外に新しく山上に自然のまゝなる書齋が出来たから此の夏はそこで富士山を眺め海を見下ろし松籟の音を聞き乍ら聖書を研究するつもりである。神の創造し給ふた此の美くしい天地に始めて生れ出た子供のやうに生きやうとする。

○訪問を見合して頂き度いご廣告した所反つて訪問が増した。以後廣告は撤去します。達磨に問答するつもりなら御訪ね下さい。

新刊廣告

江原萬里著

聖書の現代經濟觀

四六版總布裝函入二百八十頁

定價一圓二十錢 送料十二錢

著者が六年を實業界の丁稚に、六年東大の助教授に、後五年思想と生活の主筆に過し、經濟學書から聖書に移りゆいた順禮の一歷程である。

内容抄録

地を嗣ぐ者は誰ぞ。故郷歸還。運命が攝理か。文明の進歩と自然の復讐。ガリラヤの春。士族の商法。胃の腑哲學。鈴木馬左也翁。平野國臣。ガリソン。基督者とは何者か。後篇 富の増進。

發行所

獨立堂書房
振替東京一九四六八番

附記。若し讀者諸君の需あらば聖書之眞理社申込に限り、著者が署名するであらう。

内村鑑三追憶文集

四六版洋綴三百頁寫真數葉入實費として一圓外送料八錢申込は聖書研究社(振替東京七四九八)又は獨立堂、

内村鑑三先生記念出版

モーセの十誡

定價上製八〇 並製五〇、送料四

基督教道徳の根源を明かにし、現代の個人及社會生活につき教ゆるところ深し。

歡喜と希望

定價三〇 送料二

自然と人に關する美はしき感想文集 基督者と否とを問はず愛誦せらる。

復活と來世

定價六〇 送料六

基督教の來世觀を明にし愛する者を失ひ悲痛に悩む者に慰安と光明とを與ふ。

以上聖書之眞理社にて取次ぎます。

聖書の眞理定價(送料共)

- 一 部 二 十 錢
 - 半年(六部) 一圓十錢
 - 一年(十二部) 二圓十錢
 - 海外一年分 二圓六十錢
- 拂込は振替東京六三三七五番
聖書の眞理社宛のこと

思想と生活 合本

- 第一卷 二 圓 送料八錢
- 第二卷 一圓八十錢 送料六錢
- 第三卷 二圓三十錢 送料八錢

昭和六年五月二十七日 印刷
昭和六年六月一日 發行

神奈川縣鎌倉町扇ヶ谷三三四三
編輯印刷 江 原 萬 里
兼發行人

發行所 聖書之眞理社
名古屋市中區流川町一八
印刷所 一粒社印刷所
東京市外柏木九四六
發賣所 獨立堂書房

(昭和三年二月十六日) 聖書之眞理 第四十四號

昭和六年六月一日發行 (毎月一圓一日發行)

本誌定價二十錢